

緑化だより

No.39 平成21年6月号



シモツケ 平成20年6月10日撮影

○虹色きのこ
○植物と歴史
○花だより

○研修会・イベント報告
○研修会・イベント紹介
○お知らせ・ご案内

生き物いっぱい 自然いっぱい

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <http://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp



虹色きのこ

(3) 黄色

七色の虹のようにきのこも美しい色合いのものがあります。

キンチャワンタケ(金茶碗茸)

透き通るような美しい黄色です。きのこは碗形で径は2~3cm。柄は帯黄白色で根元に白色の軟毛が密生します。柄の大部分は地中に埋もれています。食毒不明です。

タモギタケ(楡木茸)

ニレなどの倒木や切り株に発生する美しい黄色のきのこです。ひだは柄に長く垂生します。関東地方以北で多く見られます。人工栽培されていますのでスーパーで見かけることもあります。一種独特の風味から好き嫌いは分かれるようです。

コガネキヌカラカサタケ

(黄金絹唐傘茸)



華奢な美しいきのこです。庭園の地上等に発生しますが、時に室内に置いた観葉植物の鉢の中から発生し驚かされることがあります。傘は綿質の鱗片に覆われレモン色で周辺部は扇のひだ状です。食毒不明です。

コガネキヌカラカサタケ



キンチャワンタケ



タモギタケ

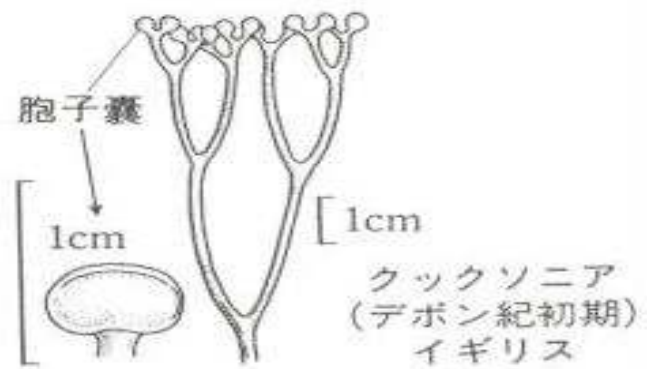
植物と歴史

『植物の進化(2) 前半』

生物の形質・生理・行動などのさまざまな特徴は、その生存環境により適応したものとなっていますが、これは全て自然淘汰という原理が働き、環境により適応したものに改良するメカニズム(仕組)であると考えられています。自然淘汰は個体間で起こるのではなく遺伝子間で起こり、適応度の高い遺伝子(DNA)の頻度が世代を重ねるごとに集団内で増加することによって進化が起これと考えられています。

生存環境によく適応したとは、遺伝子(DNA)の変異によってもたらされたものだからです。このように、生物の進化は遺伝物質である DNA の変化にあると言えます。DNA の特徴は、①増殖する ②情報を保存する ③変異する、という生物の3つの本質的特徴を備えた分子で、DNA の変異は、一般に「突然変異」と呼ばれています。

さて、陸上植物が存在した孢子の化石はオルドビス紀から発見されたと前回記しましたが、植物にとっての生殖器官である花とはいったい何でしょうか。現在の種子植物は、実はシダ植物から進化したもので花や萼は、茎や葉(シュート部)が進化したものと考えられています。(図) <続く>



イギリス出土、デボン紀初期のリニア類クックソニア

花だより

ムラサキシキブ クマツヅラ科ムラサキシキブ属

紫色の実と言えば、『ムラサキシキブ』を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。実が美しいので観賞用として庭園などに植栽されています。葉が落ちた後でも果実は枝に長く残ることもあり、野鳥の餌にもなります。和名は、美しい紫色の実を「源氏物語」の作者とされている『紫式部』にたとえたという説もあります。全国で見られますが、県内の自生は少なく、コムラサキの方が多く見られます。コムラサキはその名のとおり、ムラサキシキブより全体的に小さく、果実は密につきます。花序は葉腋(葉柄のわき)から上に離れて付き、葉柄の付け根から花序がでるムラサキシキブと区別することができます。

全体に毛が多いヤブムラサキもあります。葉裏に星状毛が密生し、指で触るとすぐに分かります。センター内にも自生しており、散策路沿いなどでよく目にすることができます。何れも落葉低木で葉

は対生し鋸歯がみられますが、コムラサキは葉の上半部にだけ鋸歯があります。

その他、宮島ではトサムラサキ、ヤブムラサキが異常に矮性になったコバノヤブムラサキが知られています。



ムラサキシキブ(花柄は葉腋から出る)



コムラサキ(葉腋の上から出る)



コムラサキの花



ヤブムラサキ(毛が多い)

研修会・イベント報告

5月13日(水) 『晩春の自然探勝』

研修会の中でも人気の高い広島大学名誉教授の関太郎先生が講師をされる「晩春の自然探勝」を5月13日に行いました。前日の夜は雨が降っていて開催が心配されましたが、当日は晴天で絶好の研修日和となりました。

今回の研修は管理事務所前を出発し多目的広場、樹木探勝園を經由して管理事務所前に帰るコースでハンカチノキ・エゴノキ・アオハダ・ウメドキ・カイノキ・ヒツバタゴ・チュウゴクボダイジュ・テングシデ・トチノキ・トサミズキ・ハルニレ等を観察しました。

この研修の人気の高いのは一つの植物でも深く掘下げ面白く説明されるところにあるのではないかと思います。一例を紹介すると、ハンカチノキはカトリックのダビット神父が中国で布教のかたわら生物の調査を行い発見したことや、ヒラドツツジは江戸時代に戦争がなくなり、することがない武士が園芸に勤しみ品種改良が進んだこと等を面白く解説されました。聞いていても次の植物ではどのような説明があるのか楽しみにするくらいでした。



晩春の自然探勝

研修会・イベント紹介

○6月12日(金) 『6月の自然探勝』 10:00～12:00 第3駐車場集合

講師:広島大学名誉教授 石橋 昇 先生

毎月第2金曜日に開催している植物観察会です。定期的に観察を行い、植物の変化を確認してみませんか。

○6月14日(日) 『庭木の手入れについて』 10:00～12:00 学習室集合

講師:樹木医 工藤 徹 先生

剪定や松のみどり摘みなどの方法やコツなどの説明を行います。質問を受けながら行いますので、日頃疑問に思っていることがあれば、この機会にぜひお聞き下さい。

○6月23日(火) 『初夏の樹木を見て歩こう』 10:00～12:00 管理事務所前集合

講師:植物研究家 清藤 徹 先生

初夏の樹木を観察しながら、園内を散策します。この時期に咲く花や葉っぱ、結実したばかりの果実など様々なものが観察できると思います。

○6月28日(日) 『初夏の写真教室』 10:00～12:00 学習室集合

講師:二科会会友 宗岡 泰昭 先生

春の写真コンクールの公開審査と講評を行います。センター内で撮影された写真が対象になります。写真コンクールは、今年から年2回開催します。応募受付は6月26日(金)迄です。みなさまのご応募お待ちしております。

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

◎ 展示会のお知らせ 展示場所:レストハウス

○野鳥写真展 開催中～6月12日(金)

野鳥愛好家が撮影した野鳥写真を展示します。長時間かけて撮影した、野鳥の一瞬の表情をお楽しみ下さい。

○夏のきのこ写真展 6月14日(日)～7月1日(水)

夏に発生するきのこ写真の展示。

○夏のバードカービング展 開催中～7月8日(水)

木彫りで作られた野鳥を展示。実物大で作られ、羽の細部まで描かれています。

◎ 6月7日(日)は、第8回『山の日』県民の集い

レストハウス前を中心に山の日イベントを開催します。集いの広場オープン記念植樹・ネイチャーゲーム・スタンプラリー・寄植教室・大道芸バルーンアートの他、カブトムシの幼虫プレゼント(数量限定)もあります。(山の日の本会場は、呉市グリーンヒル郷原)

◎ 緑化センターのサポーター会員を募集しています

より多くの方に緑化センターを知ってもらい利用してもらうための口コミ広報です。登録は無料でお名前が入った名詞をお渡ししますので、ご自分を紹介

される時に緑化センターも紹介して下さい。裏面にご自宅の連絡先やメールアドレスなどの印刷もできます。

自宅
〒732-0036
広島市東区福田町166-2

TEL 082-899-2811
FAX 082-899-2843
携帯 000-0000-0000
E-mail hiroshima@ryokka-c.jp



広島県緑化センター
サポーター会員
〇〇〇〇
ハンカチノキ
〒732-0036 広島市東区福田町166-2
TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843
URL <http://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp